

# 豊かできれいな海を守ろう

海洋ごみアクション・フォーラム～ひとつの海 足元から地球へ～

海洋ごみ問題を解決するために、県民一人ひとり行動を呼び掛ける「海洋ごみアクション・フォーラム～ひとつの海 足元から地球へ～」が5日、富山市のボルファートとやまで開かれました。富山県と環日本海環境協力センター(NPEC)が主催。環境省中部地方環境事務所、とやま環境財団、富山県県土美化推進県民会議が後援しました。

## アクション5を宣言

フォーラムには親子約450人が参加。環日本海・環境サポーターとして、海岸清掃などの環境保全活動に積極的に関与し、環境省中部地方環境事務所、とやま環境財団、富山県県土美化推進県民会議、富山県環境サポーターアクション5を宣言しました。NPECの鈴木基之理事長が、サポーター団体代表の阿サヒビールと魚津漁業協同組合を手渡しました。



「環日本海・環境サポーターアクション5」を宣言する児童たち

## 富山県知事 石井隆一



富山県は、3千級の立山連峰から水深1千級の富山湾まで、高低差4千級のダイナミックな地形を有し、美しく豊かな自然に恵まれています。なかでも、キトキトの魚、海洋深層水など、富山湾から計り知れない恩恵を受けており、こうした恵みの海を守り次代に受け継いでいくことは、今を生きる私たちの責務であります。このため、県では、富山湾の水質保全対策、環日本海・環境サポーター事業、魚の生息の場

## 環境対策を一層推進

となる藻場の育成などを進めるとともに、財団法人環日本海環境協力センターと連携して、国連環境計画が主導する日本海等の海洋環境計画の推進、日本海の海洋ごみ対策などに積極的に取り組んでいるところです。大切な海を守り、かがえの財源として未来に引き継いでいくためには、県民の皆さん一人ひとりの理解と協力が不可欠です。今後とも、県民の皆さんと力を合わせて、富山湾や環日本海地域の環境対策をより一層推進してまいりますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

あいさつ

## 環日本海環境協力センター(NPEC)理事長 鈴木基之



このたび、ボルファートとやまにおいて、大変多くの皆様にご参加いただき、「海洋ごみアクション・フォーラム」を盛大に開催することができ、誠に喜ばしいことと感じております。さて、私たちが豊かな恵みをもたらしている日本海は、陸地に囲まれた閉鎖性が高い水域であり、汚染物質の蓄積や海洋ごみの漂着など解決すべき課題をかかえています。このため、NPECでは、沿岸地域の自治体等と連携して、

## 海洋環境保全に尽力

さまざまな国際環境協力事業を展開するとともに、国連・日本政府及び関係国と連携し、各種海洋環境保全事業を推進していくこと、富山県との共催により、海の大切さを多くの方々に知っていただく機会を設けることができました。これを機会に、より一層海を守るための具体的な行動に取り組んでいただきますようお願いいたします。

## 活動発表

### 富山湾の海洋環境保全活動への支援

アサヒビールは自然の恵みを明日へをテーマに、環境への取り組みとしてCO2を減らす▽循環させる▽自然の恵みを守る▽自然の恵みの大切さを伝えるの4つを柱に進めています。2009年から「まいる明日へ」プロジェクトを全国展開しています。スパードライの売上げの一部を47都道府県に寄付し、環境保全活動などを支援しています。富山県では、富山湾の環境保全に役立ててもらっています。これまでに5回実施し、累計で2060万円に達しています。昨年7月に黒部市の海岸で行われた「みんなできれいにせまいけ大作戦」など、さまざまな活動に活用されました。環日本海・環境サポーターの一員として、今後とも富山湾の環境を守る活動に貢献していければと思っています。



黒部市の海岸で行われた「みんなできれいにせまいけ大作戦」

## 海岸の清掃に取り組み

「磯焼け」と呼ばれる藻場の衰退が全国的な問題となっています。魚津市の海底も藻場がほとんどない状態の磯焼けが進行しています。藻場は水質浄化や生物多様性維持など重要な機能を持つおり、魚津漁協では2009年から、藻場回復のための事業に取り組んでまいりました。魚津北港と経田漁港の間を藻場再生を目指す活動地域とし、10年に藻場種苗を取り付けた養殖ブロッコリの設置や、食害となるウニの駆除を行いました。繁茂状



海藻を守るためのウニの駆除作業

## 豊かな海づくりをめざして(藻場再生の取り組み)

### 魚津漁業協同組合 浜住 博之氏

況を定点モニタリングしていますが、生育量が増えていることが分かっています。さらには、アマモの直接移植を試み、苗の育成も始める予定です。09年から片貝川上流で植林活動を行っています。森林からの栄養が川や地下水を通して海に流れ、海藻類を育ててくれます。広がりを待った活動を続けることが恵み豊かな海づくりにつながると信じています。

## 海藻設置しアマモ育成

## 環日本海環境協力センターによる海洋環境保全の取り組み

### 環日本海環境協力センター調査研究部主任研究員 寺内 元基氏

NPECは、1996年から海岸に流れ着く漂着ごみの調査を行っています。今では中国、韓国、ロシアとともに共通の手法によるモニタリングを実施し、国連環境計画のプロジェクトの中で海洋ごみの監視をしています。NPECの環境教育活動の中に、北東アジア地域環境体験プログラムがあります。これまでに中国・韓国・ロシアの3カ国で開催しており、日中韓の中高生が活動発表や漂着物の回収などを体験しました。来年度は富山県で開く予定です。NPECは人工衛星を使って海の様子を調査しており、日々の植物プランクトン濃度や海面水温をインターネットで公開しています。東日本大震災では、海の中も大きな打撃を受けました。NPECでは、被害を受けた藻場を人工衛星などを使って多面的に調査し、その復元に協力するプロジェクトに取り組んでいます。

## 4カ国で海洋ごみ監視



## 富山湾の魚を楽しく説明

さかなクン トークショー さかなクンはトレードマークのハコフケの帽子に白衣姿で登場。魚の魅力や海洋環境保全の大切さについて分かりやすく伝えました。得意の絵を素早く描きながら、ブリ、ウツラハギ、サクラマスなど富山湾で獲れる代表的な魚の見分け方やその生態について楽しく説明し、会場を盛り上げました。

地球の面積の約7割を占める海で最も生物の種類が多いのが日本の周りの海です。日本中の海を見てきたさかなクンは、ごみや廃水で汚れている現状を伝え、「魚たちを守るためには、川や海を汚さないことが大切です。そのためには、食べ残しをせずに感謝して食べ、物を大事に使いましょ」と会場の参加者に呼び掛けました。



NPECによる大震災の被害状況調査

## 環日本海・環境サポーターアクション5

今回のフォーラムでは、子どもサポーターの皆さんから「環日本海・環境サポーターアクション5」が宣言されました。



サポーター募集 サポーター登録は、NPECホームページでダウンロードした「登録情報」フォームに必要事項を記載の上、メールまたはファクスで送付してください。お問い合わせは、環日本海環境協力センター(NPEC)企画交流課、電話076(445)1571、FAX076(445)1581、電子メールsupporter@npec.or.jp 詳しくは、ホームページ 環日本海・環境サポーター 検索



皆さんも、環日本海・環境サポーターになって、豊かできれいな海を守り育てるために、身近なところから、できることから取り組んでいきましょう。

環日本海・環境サポーター 昨年開始 企業・団体・学校などから1300人登録 私たちの海は、世界中の海とつながっており、身近な富山の海から豊かできれいに守り育てていくことが、環日本海地域の環境保全につながります。まずは、足元から行動を起こし、一人ひとりが、海洋ごみを減らす取り組みを進めながら、海の生き物のための環境づくり、豊かな海を育む森づくりなども取り組んでいくことが大切です。現在、サポーターには企業、団体、NPO、学校等の子どもから大人まで約1300人の方が登録されています。このため、富山県とNPECでは、こうした取り組みを行う人々を、環日本海・環境サポーターとして募集・登録し、その活動を応援するサポーター制度を昨年6月から開始しました。今後とも、NPECでは、環境情報提供、出前講座等の開催、サポーターの皆さんの活動PR等の活動支援を通じて、サポーター活動の拡大、充実を推進していきます。

NPECの取り組み 財団法人環日本海環境協力センター(NPEC:エヌベック)では、これまで蓄積してきた経験やノウハウを活用し、環日本海地域の環境保全に貢献する取り組みを進めています。例えば、人工衛星による海洋環境モニタリング技術を活用し、①県民への海水浴場の水温情報の提供②研究者への基礎データの提供③東日本大震災の復興支援などを行っています。また、海洋ごみ対策については、当初、日本の10自治体の連携・協力により開始した漂着物調査が、現在では、日本、中国、韓国、ロシアの4カ国に拡大しており、環日本海地域の市民の海を守る心の醸成に貢献しています。さらにこうした取り組みは、4カ国が参加して環日本海地域の海洋環境保全を推進する北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP:ナウパップ)の海洋ごみ活動へと発展しています。NPECではこれからも、環日本海地域の豊かな環境を守り、将来に受け継いでいくために、各種海洋環境保全事業に積極的に取り組んでまいります。